

平成 21 年度電気規格調査会規格委員総会 (表彰式) の報告

標準化推進室

7月23日 午後、グランドヒル市ヶ谷「珊瑚の間」にて平成21年度電気規格調査会規格委員総会を開催いたしました。

規格委員総会では、平成20年度電気規格調査会事業報告および平成21年度事業計画の報告、電気規格調査会規程改訂の審議が行われました。また、委員の互選により松村新会長をはじめとした平成21・22年度の電気規格調査会の役員（会長、副会長、理事）を選出いたしました。

今年度は、議事の最初に、4回目となる電気規格調査会功績賞、功労賞等の表彰式を執り行いました。功績賞には、井上博史氏と増田博之氏、功労賞には、高須和彦氏と山野芳昭氏が受賞されました。また、今年度は活動特別賞として、圧延機用交流電動機の規格化（テクニカルレポート）調査専門委員会が受賞されました。受賞者それぞれから謝辞挨拶も行われました。（山野芳昭氏は規格委員総会欠席）

井上博史氏は、製品規格で引用される重要性の高い電磁両立性の基本規格に取り組み、機器電源の高調波限度値に関して、電力系統の電圧ひずみ抑制と機器の対策限度に関する相互課題を、関連業界との調整により取りまとめたことを始めとして9件の電磁両立性関連のJISの制定・改正に参画し活躍されました。また、IEC規格制定への日本提案による原案作成や電気学会シンポジウムでの標準化に関する講演などにも積極的にとりくまれ多大な貢献をされました。

増田博之氏は、省エネルギーと環境問題への対応に欠かせない重要な基盤技術であるとともに、厳しい国際間競争が続く分野である「電力変換装置で駆動される回転機にかかわる事項」や「電源用の交流電動機的设计・性能の手引き」に関するIEC規格に取り組み、回転機と駆動システムの要求事項の整合を図りつつ、わが国技術を国際標準の先駆けとして提案するために、IEC規格審議のエキスパートとして参画し大きな成果を挙げました。

高須和彦氏は、電気規格調査会において、19年以上の長年に亘りがいし標準化委員会の委員長・幹事として活躍され標準化を推進されるとともに、電気学会調査専門委員会の委員長も歴任され、がいしに関する研究調査も積極的

に推進されました。JEC規格においては「懸垂がいしおよび耐塩がいし」や「ブッシング」など、がいし技術の広範囲な新規内容の取り込みに際して主導的に活躍され取りまとめるとともに、IEC規格の審議を主体的に推進され、この分野における国内外の標準化に多大な貢献をされました。

山野芳昭氏は、電気規格調査会において、標準化委員会の委員長・幹事・委員を歴任し、18年以上の長きに亘り標準化を推進されると共に、後進の育成にもご尽力されました。JEC規格に関しては「電気絶縁材料の誘電正接および誘電率試験方法」と「耐熱性試験方法」に関する通則などについて取りまとめられました。また、IEC規格審議に積極的に参画し、わが国技術の国際標準化に主導的役割を果たすとともに、13件のJIS制定・改正にも主体的かつ実質的な貢献をされました。

圧延機用交流電動機の規格化（テクニカルレポート）調査専門委員会は、交流可変速電動機に関するJEC-TR「圧延用交流可変速電動機」を制定されました。本レポートは電気学会調査専門委員会における研究調査活動を基に、金属圧延用に供する大型の交流電動機を駆動制御装置と組み合わせることで、直流電動機と同等もしくはそれ以上の性能を発揮させるために、電動機や駆動制御装置単体の規格との整合を図りつつ、電動機、駆動制御装置、現地据付・試運転試験に跨る複合技術を取りまとめたものであり、国際的にも類を見ない独創的な内容であると高く評価され、将来の活用が期待されるものであります。



（後列：圧延機用交流電動機の規格化（テクニカルレポート）調査専門委員会
左から：木村氏、濱口氏、江藤氏、森田氏、星野氏）
（前列 左から：高須氏、鈴木会長、増田氏、井上氏）